

2015

Vol. 3

No. 2

これからの
女性医療を考える

White

Women's Health Initiative for Total care and Education

特集 Eye-Catching Review **メインレビュー**

Urogynecology

Overview

- 1 泌尿器科医からみた女性の骨盤底脆弱化に伴う疾患と治療のコツ
- 2 女性医学に必要な下部尿路症状について
- 3 世界の Urogynecology について
- 4 女性のためのコンチネンスケア

Ask Specialist 専門医からのアドバイス

女性を取り巻く性感染症

Key Message

産婦人科診療に役立つ美容形成的治療

細胞レベルでお肌をチェック—肌トラブルを未然に防ぐ「角質バイオマーカー®」—

化粧品のトラブル—対策と治療をどう考えるか?—

骨粗鬆症性骨折低減の重要性と具体策

White Board

ライフステージに合わせた女性の美と健康—毛髪を中心に—

White Plus ~いま、女性医療の領域で起きている注目すべき変化~

女性の健康の包括的支援に関する法律の制定について

女性の健康にまつわる

新語辞典



Current Words

医療法人アスムス理事長
太田秀樹

「Choosing Wisely」

「ちゅーじんぐわいずりー」

Choosing Wisely

賢い医療の選択





わが国は、人口が減少する中で、世界に類を見ない規模とスピードで超高齢社会が進展している。おびただしい数の高齢者らの、フレイル、サルコペニア、脱水、認知症など「老年症候群」と見なされる兆候、病態に対して、一体誰が、どこで、どのように対応してゆくのか。さらに、終末期医療がどうあるべきかなど、倫理的課題を含め、高齢者を取り巻く医療のパラダイムは革命的に変化しなくてはならない状況である。

従来型の臓器別、疾病別の要素還元的な専門医療に解決を求めると、たとえば誤嚥が危険だという理由で経口摂取が禁止され、胃瘻による栄養管理になることもある。進行がんに対しては、保険診療が可能だという理由で、効果が不確実であっても化学療法が漫然と行われることも生じる。「ケモ死」（ケモセラピーによる死）という隠語に象徴されるように、化学療法が結果的に苦痛を増大させ、生命予後を短くすることは決してまれなことではない。死を敗北として発展してきた医学であるから、なおさら死を受け入れねばならない患者へのソリューション提示が難しいわけだが、超高齢多死社会の現実を直視すると標準的医療が人の幸福に貢献できているのか、大いに疑問が湧いてくる。

平均寿命を大きく超えた超高齢者に対して、厳格な血圧管理や血糖管理が必要なのか、認知症高齢者に骨粗鬆症の薬物療法が有益なのか、高齢者に限らなくとも、日常的に遭遇

する腰痛や関節痛に対して初診時にレントゲン検査が必要かなど、実際の臨床の場面では診断学に基づく治療という本来であれば正しい態度に、疑問を抱かざるを得ない状況に遭遇する。医療介入の妥当性尺度をQOLに求めると、費用対効果を含め社会的損失につながる医療提供が行われている懸念を払拭することができないのである。

そこで、米国では2012年から「Choosing Wisely ～賢い医療の選択～」と名付けられたキャンペーンが展開されている。米国内科専門医認定機構財団(American Board of Internal Medicine ; ABIM) が中心となり、米国医学会に加盟している71学会に対し、無駄と考えられる医療を公開するようと呼びかけた。2013年には、50の学会が250以上の医療行為をむしろ有害な医療である、あるいは推奨しない医療として公表している。日本にも大きなインパクトを与えているが、とりわけ高齢者に対して無駄のないあるべき医療は、わが国から発信せねばならない。

健康寿命と平均寿命の乖離は、何らかの社会的援助や誰かの支援なしに暮らすことができない虚弱化した期間を経て命を閉じるという現実を雄弁に語っている。今、地域包括ケアシステム構築の重要性が叫ばれているが、フレイルリティとともに暮らすこの時期に、一体どのような医療が賢い選択なのか、国民的論議が求められている。もはや積極的な医療

を否定して、在宅で安らかな最期を望む高齢者も少なくない。Natural death (自然死)を支える生活の場で提供される在宅医療こそが、実は究極の「Choosing Wisely」なのではないだろうか。